

バイパス整備の目的と経緯

本路線は、県内でも屈指の歴史的観光地である「大山」から、伊勢原市三ノ宮の県道612号（上粕屋南金目）に至る「延長約3kmの道路（2車線）」です。
 並行する現道部は、大山に通じる唯一のバス路線ですが、幅員が狭く、車両のすれ違いが困難なことから、朝夕や観光シーズンには、慢性的な渋滞が生じていました。また、歩道がなく、歩行者が危険な状況にあったことから、県は、平成3年（1991年）度にバイパス整備に着手しました。
 これまで、平成12年（2000年）4月に大山（起点）側の約0.8km区間が開通し、平成23年（2011年）3月には、約0.8km区間が開通しました。
 そして、令和4年（2022年）3月20日には、約1.4km区間が完成し、全線開通します。

大山バイパスの位置



大山道の歴史



五雲亭貞秀「相模国大隅郡大山寺雨降神社真景」安政5（1858）年
【伊勢原市教育委員会 蔵】

大山、別名「雨降山」。早魃時に恵みの雨をもたらすとされた大山の山頂には石尊大権現が祀られ、人々には五穀豊穡の神として崇めました。「豊かさ」を象徴する神はまた、商売繁盛のシンボルでもありました。
 江戸時代、修験者たちは大山山麓に居を構え、大山御師（先導師）として大山信仰を庶民の間に広げていきました。参詣ツアーのための組織が大山講であり、町人も村人も「講」すなわちグループで、大山詣でを行いました。講が組織された地域は関東一円、さらには、静岡、福島、新潟など広範囲だったといえます。広い地域から参詣ツアーが行われたため、ひとくちに大山道といっても実際に大山に至る道は何本もありました。
 大山道の代表的なものは矢倉沢往還・柏尾通大山道・田村通大山道・六本松大山道です。大山へ向かう多くの道は、だんだん集まってゆき、一本となり宿坊街に至りました。

大山阿夫利神社

創建は紀元前97年崇神天皇の頃と伝えられ、大山神（おおやますみのかみ）、雷神（いかづちのかみ）、高おかみを祭神とし、海人たちの守り神、鳥石楠船神（とりいわくすぶねのかみ）を合祀しています。
 本社は山頂にあり、中腹に下社があります。
 ケブルカーを降りると大山阿夫利神社の下社。ここは標高696m、ここからひたすら急峻な山道を1時間30分歩くと1251.7m頂上の本社に着きます。
 神奈川の景勝50選のひとつとあって、雄大な眺望が一気に広がり眺めは素晴らしいものです。



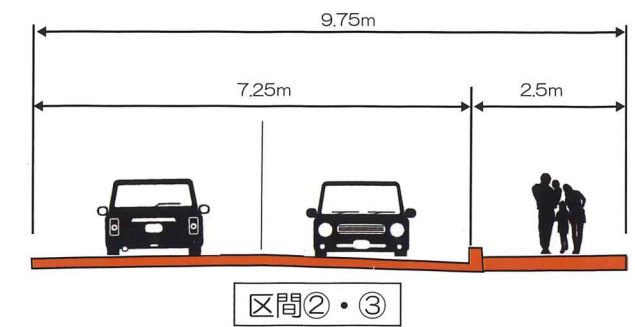
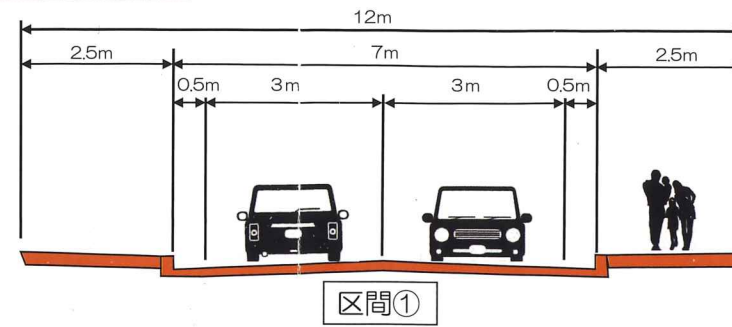
祝・全線開通
県道611号（大山板戸）
大山バイパス



事業概要

- 事業箇所：伊勢原市 大山～三ノ宮 地内
- 事業延長：約3.0km
- 道路設計：第3種第3級
- 設計速度：V=40km/h
- 計画幅員：区間① 12.0m（車道7.0m+歩道2.5m×2）
区間②・③ 9.75m（車道7.25m+歩道2.5m）

標準横断図



平面図

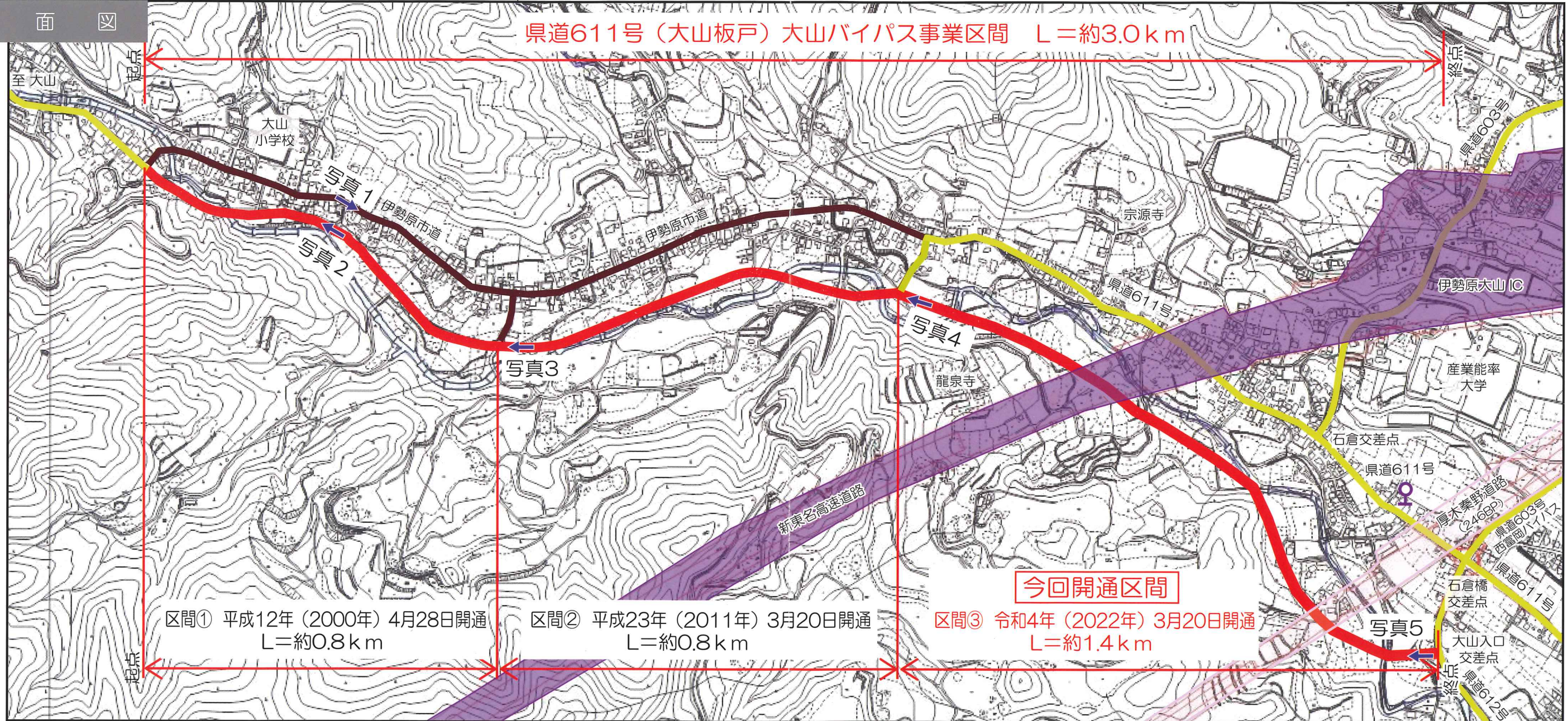


写真1 伊勢原市道部（旧県道部）



写真2 バイパス起点交差部



写真3 市道との交差部

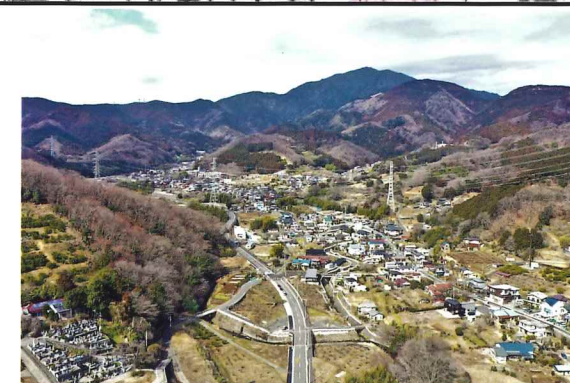


写真4 市道との交差部



写真5 大山入口交差点